

農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

安心安全なジビエの普及を図るためトレーサビリティの体制の整備や、大手流通グループへの供給、全国の施設との連携により、ウデやスネ等の低利用部位を集約し販売することで国産ジビエの消費拡大及び残渣の低減に貢献。

かぶしきがいしゃ しんしゅう ふじみこうげん

株式会社信州富士見高原ファーム

（代表取締役：戸井口 ^{といぐち} 裕 ^{ゆたか}） ^{すわぐん ふじみまち}
長野県諏訪郡富士見町

主な取組

- 平成25年、捕獲した命を貴重な地域資源とし有効活用することを目的に、猟友会の有志が共同で設立。
- 「安全・安心でおいしい富士見町産ジビエ」の商品化のため、「信州ジビエ衛生管理ガイドライン・衛生マニュアル」に基づいた品質・衛生管理を実施し、平成27年に長野県の「信州産シカ肉処理施設認証」を取得。
- 長野県と連携し、出荷精肉に個体の捕獲や処理情報を追跡できるQRコードを貼り付けトレーサビリティ体制を整備するとともに、長野県や卸売業者等が構築したシカ肉製品の流通の仕組みを活用し、大手流通企業グループへ冷凍生肉や加工品を供給するほか、県内外のレストラン、JAグループ等に供給し、「信州ジビエ」のブランド化や消費者への普及に貢献。
- 平成31年には、国産ジビエ認証を取得し、全国の施設に対して解体実演講習や講演を行い制度の普及に努める。
- 全国の国産ジビエ認証施設と連携し、販売が難しいウデやスネなどの低利用部位を集め、大ロットにして大手外食販売店に供給し、消費拡大及び残渣の低減に貢献。
- ジビエの利用率（町内の捕獲頭数のうち処理頭数の割合）は、平成29年度の41%から令和元年度の67%まで増加。

【処理頭数 平成29年度：259頭 → 令和元年度：477頭】